

九州・山口県の火山活動

(令和7年11月1日～12月23日)

令和7年12月23日
福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

今回のポイント

- ・霧島山(新燃岳) 火山性地震の概ね多い状態が継続
- ・桜島 噴火活動が継続

霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

新燃岳火口から概ね2kmの範囲で警戒。

(大きな噴石:火口から概ね2kmまで、火碎流:火口から概ね1kmまで)

- ・噴火は9月8日以降なし。
- ・火口直下を震源とする火山性地震は概ね多い状態。
- ・火山ガス(二酸化硫黄)の放出量などその他の観測データには、活動の高まりは見られていない。

桜島

噴火警戒レベル3(入山規制)

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2kmの範囲で警戒(大きな噴石、火碎流)。

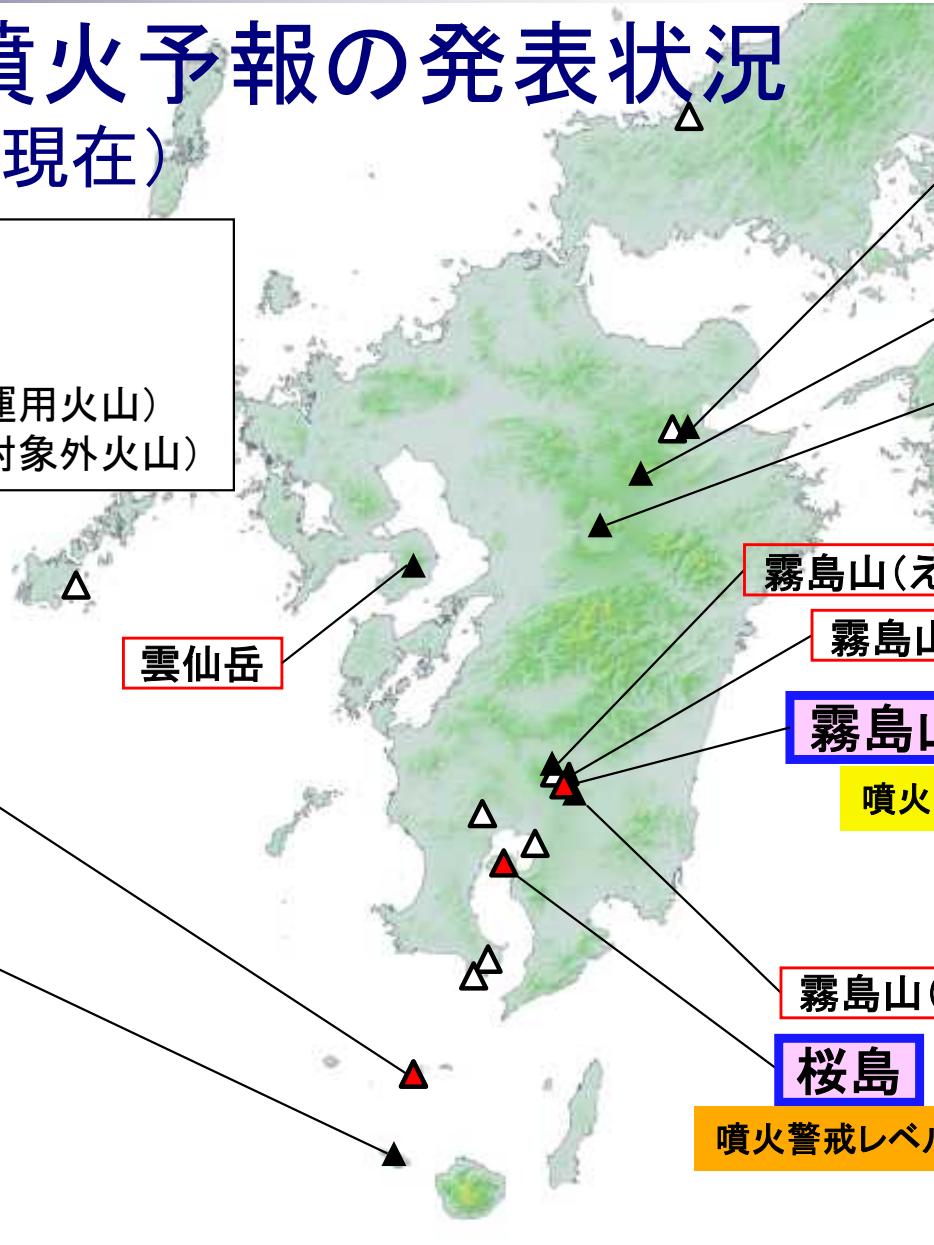
- ・南岳山頂火口で噴火活動が継続。
- ・GNSS 連続観測により、姶良カルデラの地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態と考えられ、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は概ね多い状態であることから今後も噴火活動が継続すると考えられる。

噴火警報及び噴火予報の発表状況

(令和7年12月23日現在)

火山名 は噴火警戒レベル運用火山

- ▲噴火警報発表中の火山
- ▲噴火予報発表中の火山(レベル運用火山)
- △噴火予報発表中の火山(レベル対象外火山)

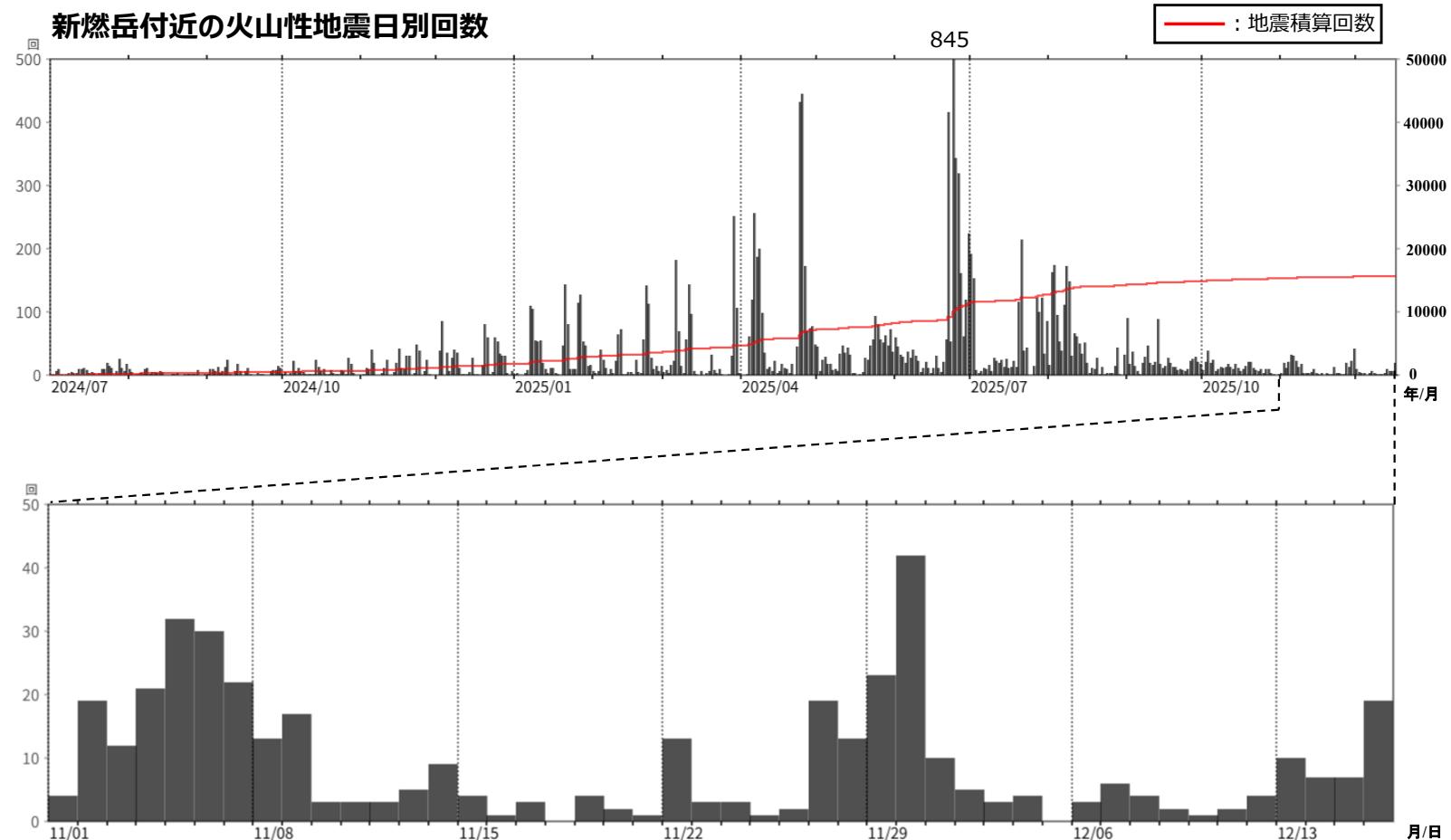


霧島山(新燃岳) 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)



■ 地震

火口直下を震源とする火山性地震は、2024年10月下旬頃から増減を繰り返しており、11月以降は概ね多い状態。

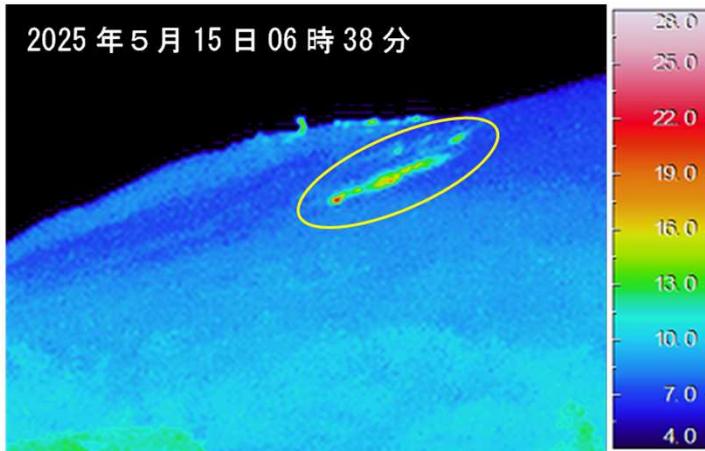
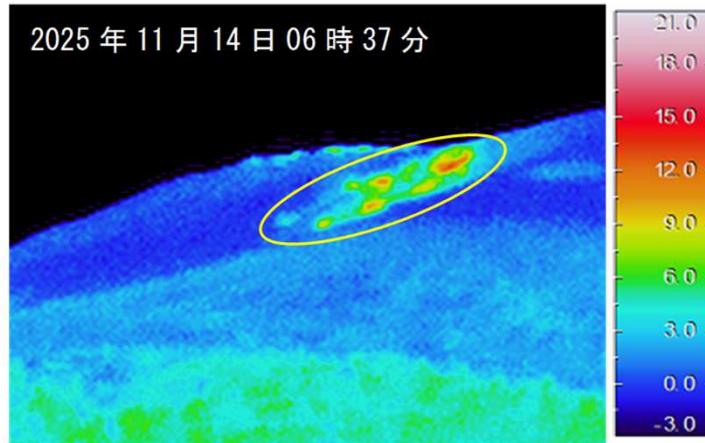


上段：2024年7月1日～2025年12月16日
下段：2025年11月1日～12月16日

霧島山(新燃岳) 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

■ 現地調査(11月14日に新湯温泉付近から実施)

- ・新燃岳西側斜面の割れ目付近で白色の噴気を観測。
- ・新燃岳西側斜面の割れ目付近の地熱域（黄色丸）の範囲は、6月下旬からの一連の噴火活動開始前（5月15日）と比べて拡大。



新燃岳西側斜面の割れ目付近の状況 (新湯温泉付近から観測)

霧島山(新燃岳) 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

■ GNSS連続観測

3月頃から霧島山深部の膨張を示すと考えられる基線のわずかな伸びが認められていたが、7月上旬頃から停滞。

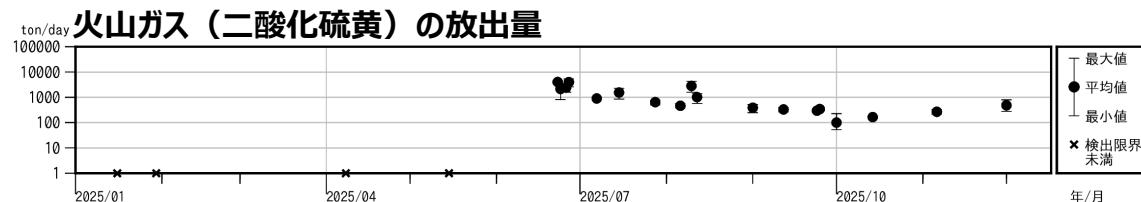
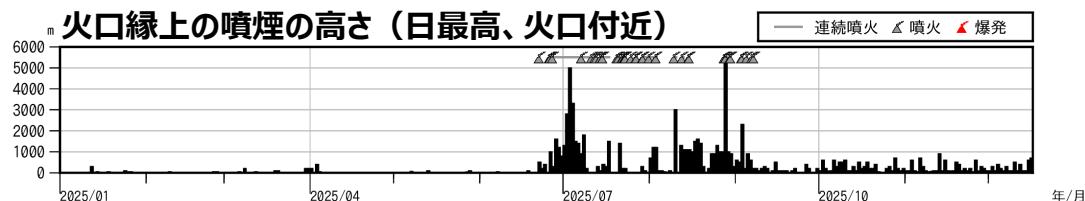
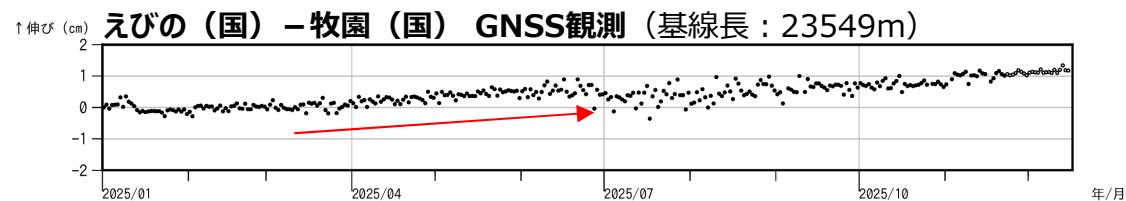


■ 噴火活動

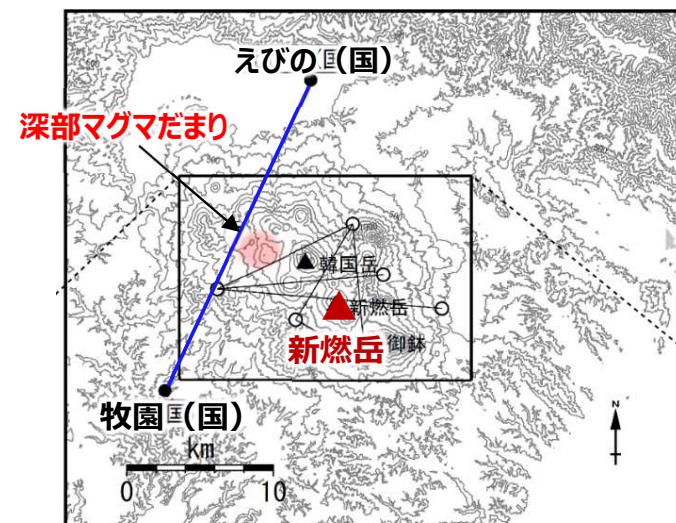
9月8日以降、噴火は観測されていない。

■ 火山ガス(二酸化硫黄)の放出量

11月以降、300～500トン。



2025年1月1日～12月16日

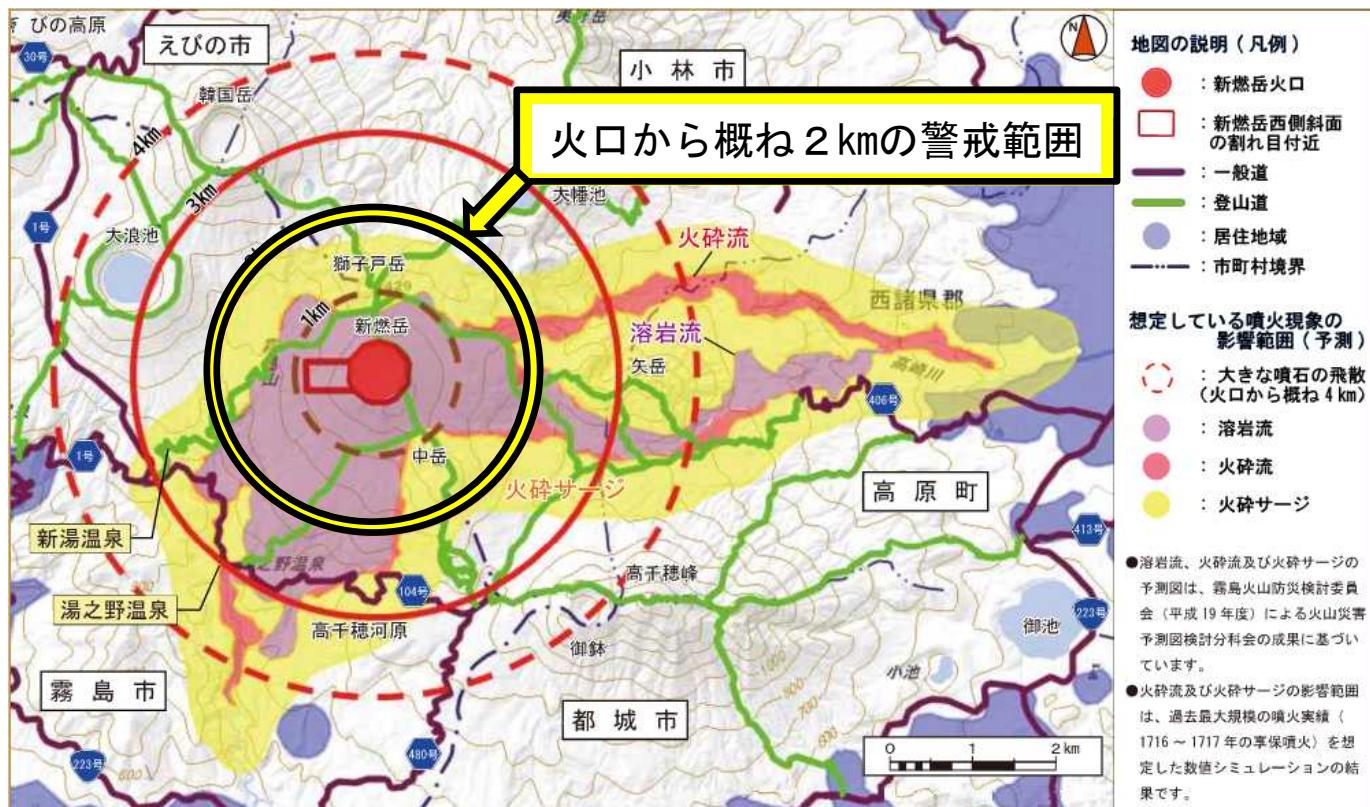


霧島山(新燃岳) 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項等

弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね2kmまで、火碎流が概ね1kmまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね2kmの範囲では警戒してください。



- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

- ・南岳山頂火口で噴火活動が継続。
- ・噴煙は最高で火口縁上4,400mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石は最大で5合目(南岳山頂火口から約1,400m)まで達した。



南岳山頂火口の噴煙の高さ(日最高)(2023年12月～2025年12月16日)

※白色及び色不明の噴煙の高さは除く。

※火映の強度：強度1(肉眼でようやく認められる程度)、強度0(高感度の監視カメラでようやく認められる程度)



11月16日00時57分に発生した南岳山頂火口の爆発の状況（牛根監視カメラ）

・噴煙が火口縁上4,400mまで上がった。

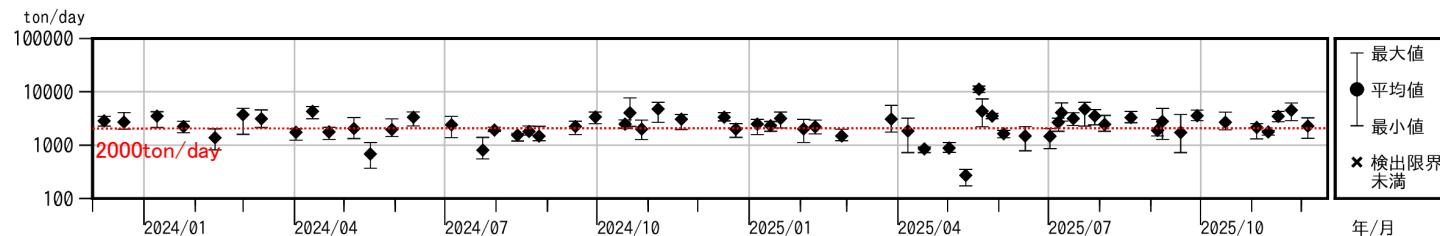
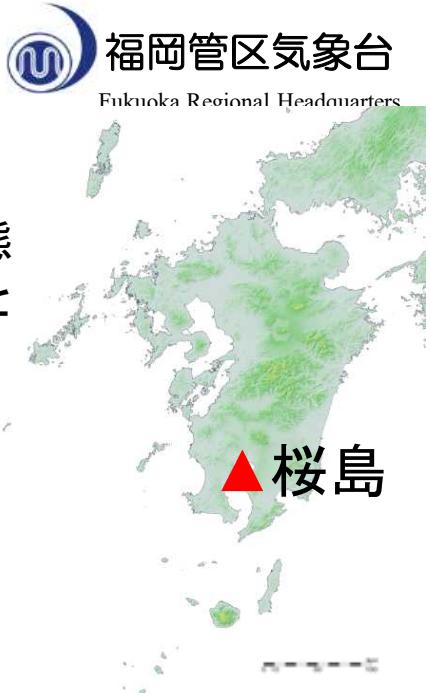


11月16日02時28分に発生した南岳山頂火口の爆発の状況（中央港新町監視カメラ）

・大きな噴石が最大で5合目(南岳山頂火口から約1,400m)まで達した(黄破線内)。

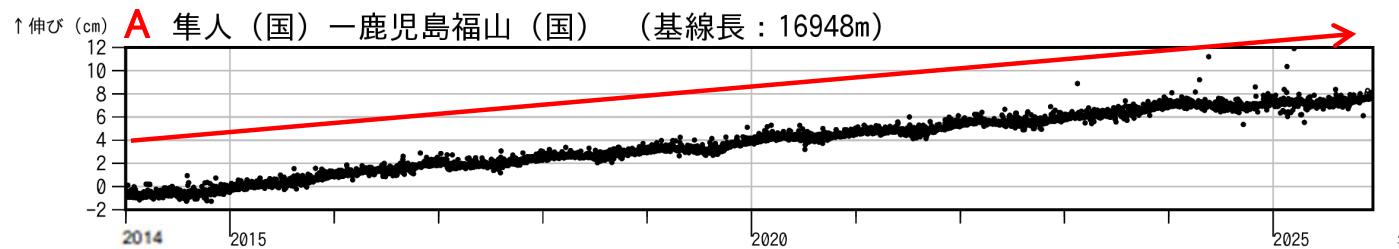
桜島

姶良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態と考えられる。また、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられる。



火山ガス(二酸化硫黄)の放出量(2023年12月～2025年12月16日)

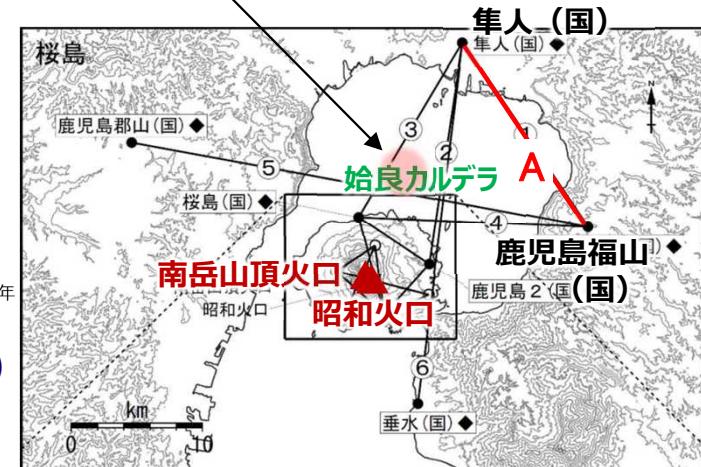
- ・11月以降、1日あたり1,800～4,500トンと、概ね多い状態で経過。



GNSS連続観測による基線長変化(2014年1月～2025年12月16日)

- ・姶良カルデラ(鹿児島湾奥部)を挟む基線では、長期にわたり姶良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる。

姶良カルデラの地下深部のマグマだまり(膨張源の位置)



GNSS連続観測点と基線

桜島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒事項

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。



昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2km

- ・風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
 - ・爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。
 - ・降灰状況により、降雨時に土石流が発生する可能性があるので留意してください。

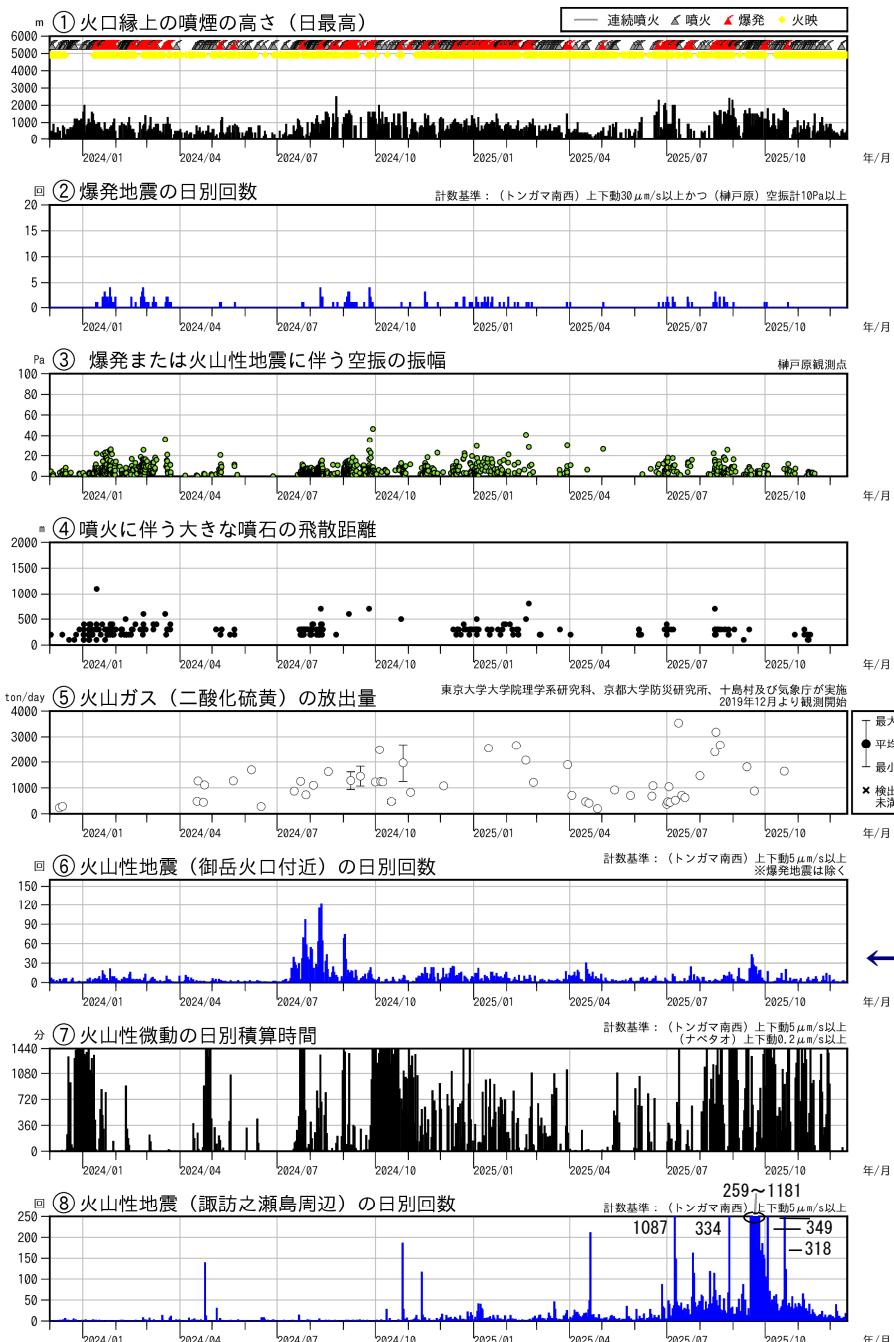
以下、参考資料 (火山の活動状況、用語集など)



諏訪之瀬島 活動状況1

<2025年11月から12月16日までの状況>

(12月の回数等は速報値)



噴煙等の状況

- ・噴火に伴う噴煙は、最高で火口縁上1,500mまで上昇。
- ・爆発はなし。
- ・弾道を描いて飛散する大きな噴石は、火口中心から最大で約300m(11/6)まで飛散。
- ・御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

火山ガス（二酸化硫黄）の状況

- ・今期間、観測値なし。

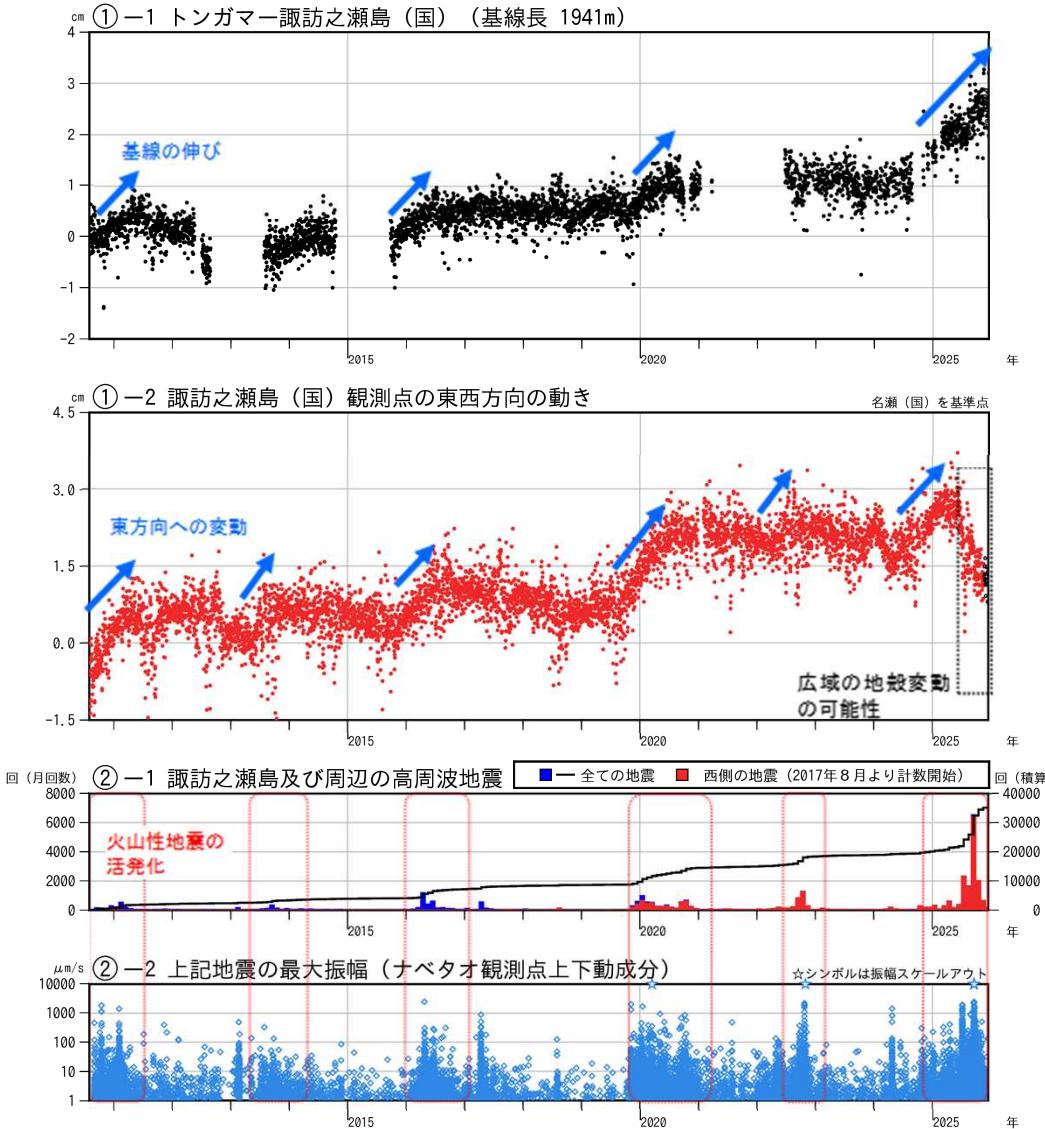
火山性地震等の状況

- ・諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は11月645回で前月と比較し減少(10月2,024回)。中長期的には、2024年10月頃から島の周辺において地震活動が高まっている。
- ・御岳火口付近の火山性地震(爆発地震を除く)は、11月95回で、前月と比較して減少(10月115回)。
- ・火山性微動は主に噴火に伴い発生。

←諏訪之瀬島 火山活動経過図(2023年12月～2025年12月16日)

- ・2024年8月29日から12月3日まで、及び2025年9月10日から10月13日まで、寄木カメラ障害のため噴煙の最高高度が観測できていない可能性がある。
- ・火山ガス放出量は噴火の直後に計測した場合、値が大きくなり、噴火の発生前に計測した場合には小さくなる傾向がある。
- ・トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間がある。

諏訪之瀬島 活動状況2



GNSS連続観測と周辺の火山性地震(2010年8月～2025年12月16日)

①-1の基線は右図①-1に対応。空白部分は欠測を示す。2024年9月1日の観測点修繕工事(トンガマ観測点)に伴うステップを補正している。

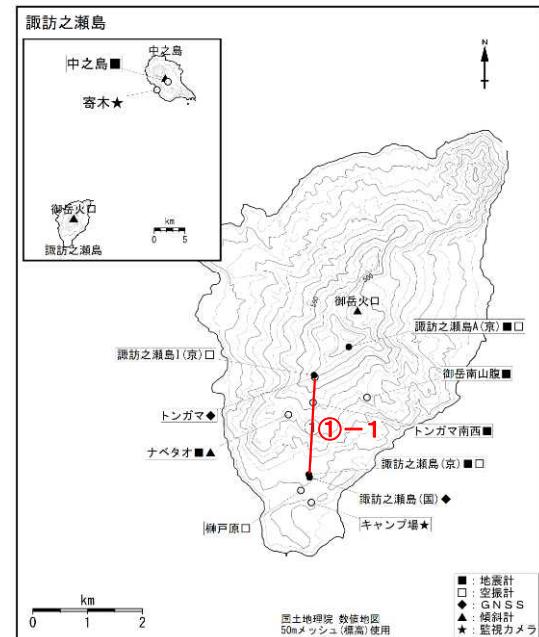
①-2は島外の観測点(名瀬(国))を固定した観測点の東西の変動を示す。
(国): 国土地理院

地殻変動の状況

・GNSS連続観測では、2024年10月以降、島の西側やや深部におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動が認められている。

火山性地震の状況

・中長期的には、2024年10月頃から島の周辺において地震活動が高まっている。



観測点配置図とGNSS連続観測の基線番号

GNSS基線長図(左図①-1)の基線を赤線で示す。

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国): 国土地理院、(京): 京都大学

諏訪之瀬島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

御岳火口中心から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。



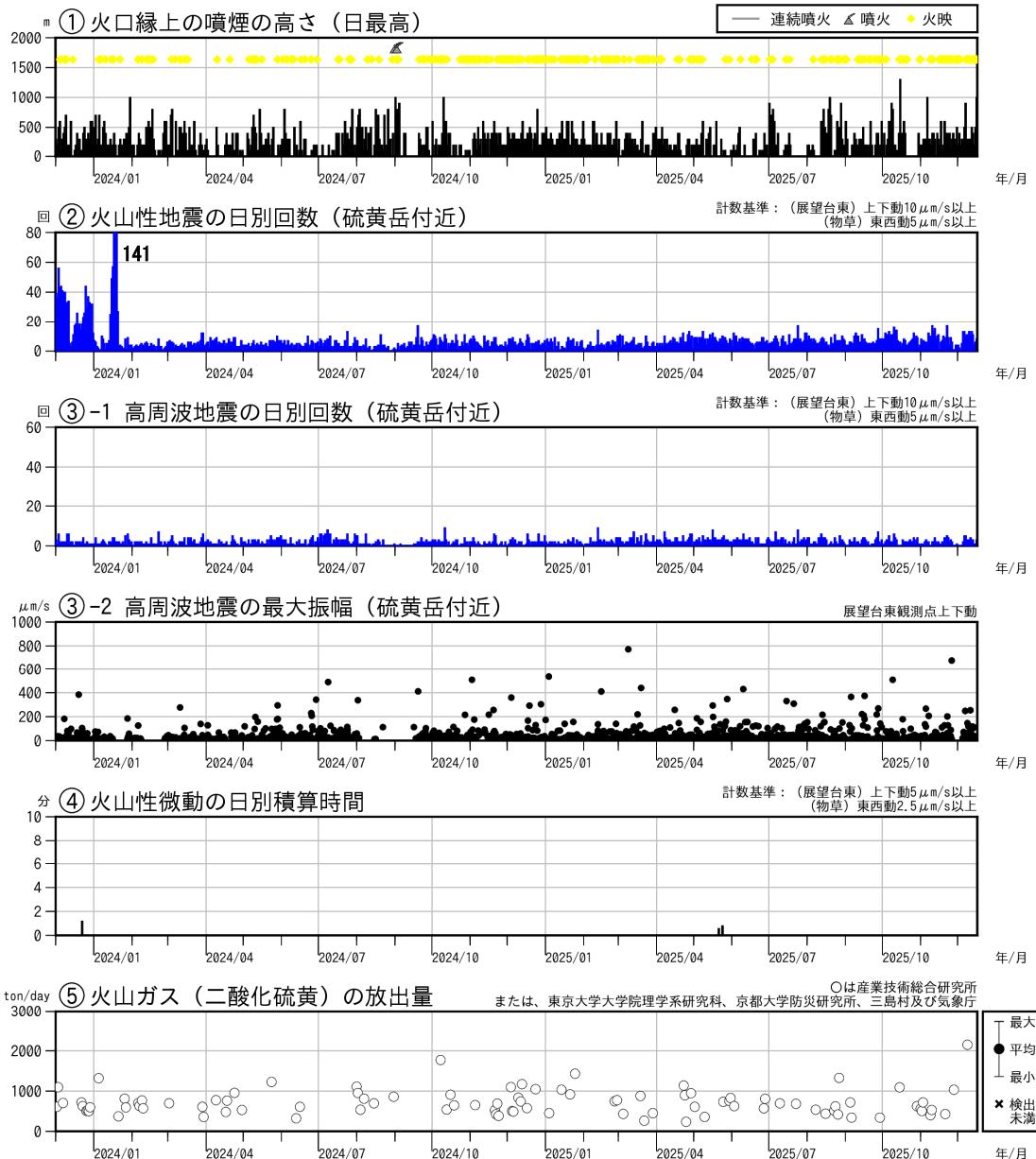
- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

火口から概ね1.5kmの警戒範囲

- 一般道
- 登山道
- 御岳火口
- 居住地域
- レベル3の規制箇所
- レベル2の規制箇所

薩摩硫黃島 活動状況

噴火警戒レベル2
(火口周辺規制)



< 2025年11月から12月16日までの状況>
(12月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

- ・硫黄岳火口で、白色の噴煙が最高で火口縁上1,000mまで上昇。
- ・硫黄岳火口で、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

火山性地震等の状況

- ・火山性地震は少ない状態で経過(11月: 229回、12月: 132回)。
- ・高周波地震の月回数は11月46回、12月34回。振幅の大きな地震が時々発生。
- ・火山性微動は観測なし。

火山ガス（二酸化硫黄）の状況

- ・1日あたり400～2,200トン。
- ・長期的には1日あたり1,000トン前後の状態が継続。

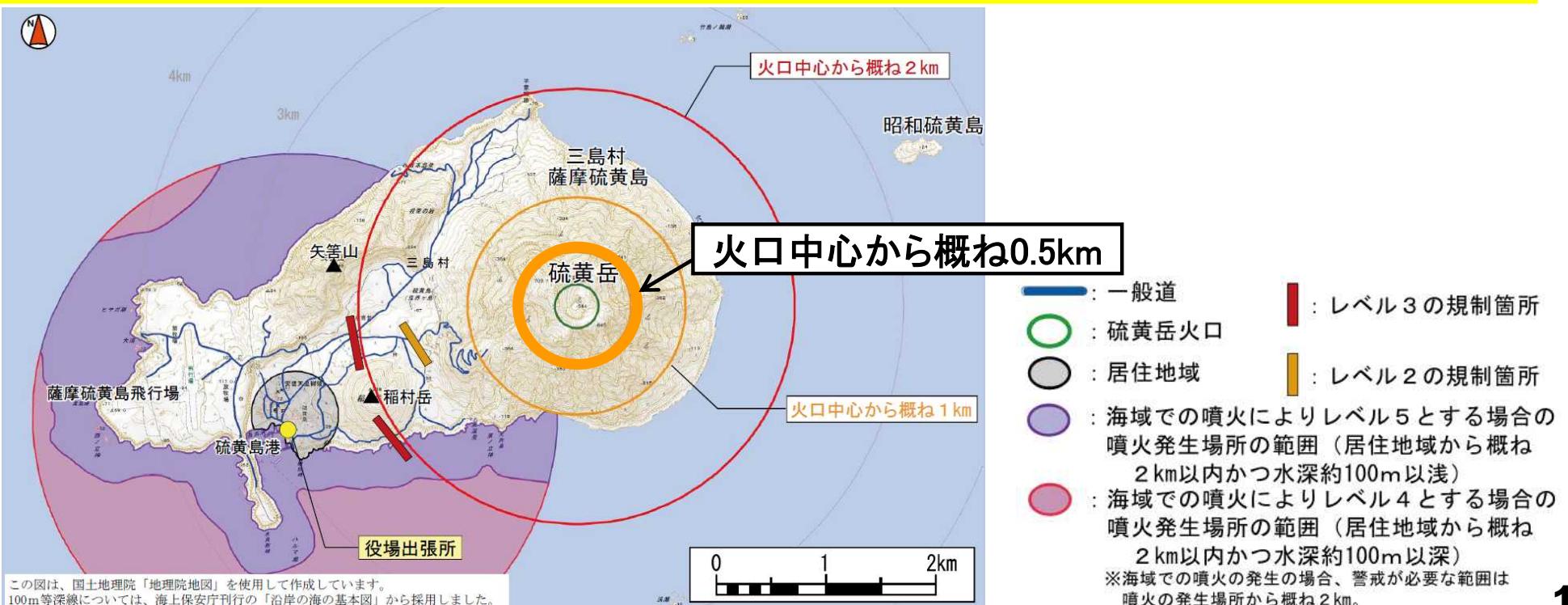
薩摩硫黄島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

硫黄岳火口中心から概ね0.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。



用語集

- **噴石**：気象庁では、噴火によって火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでいる。火山に関する情報では、防災上の観点から、「大きな噴石」および「小さな噴石」に区分して使用する。
 - ・**大きな噴石**：概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散する噴石のこと。
 - ・**小さな噴石**：直径数cm程度の、風の影響を受けて遠方まで流されて降る噴石のこと。
- **火碎流**：噴火により放出された破片状の固体物質と火山ガス等が混合状態で、地表に沿って流れる現象のこと。火碎流の速度は時速百km以上、温度は数百°Cに達することもあり、破壊力が大きく、重要な災害要因となりえる。
- **空振**：噴火などによって周囲の空気が振動して衝撃波となって大気中に伝播する現象のこと。空振が通過する際に建物の窓や壁を揺らし、時には窓ガラスが破損することもある。火口から離れるに従って減速し音波となるが、瞬間的な低周波音であるため人間の耳で直接聞くことは難しい。
- **火山性地震**：火山体またはその周辺で発生する地震のこと。マグマの動きや熱水の活動等に関連して発生するものや、噴火に伴うものもある。火山によっては火山活動が活発化すると多く発生する傾向がある。
- **火山性微動**：火山体またはその周辺で発生する火山性地震よりも継続時間の長いもの。地下のマグマや火山ガス、熱水などの流体の移動や振動が原因と考えられるものや、微小な地震が続けて発生したことによると考えられるものがある。火山活動が活発化した時や火山が噴火した際に多く観測される。
- **火映**：高温の溶岩や火山ガス等が火口内や火道上部にある場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象のこと。一般には夜間に観察される。
- **赤熱**：高温の溶岩や噴気孔が赤く見える状態、あるいは現象のこと。
- **GNSS連續観測**：GNSS(全球測位衛星システム: Global Navigation Satellite Systems)の受信機を用いて連続的に地表の動き(地殻変動)を測定する観測。火山内部のマグマの動きを推定するために利用される。
- **爆発**：噴火の一形式。桜島や霧島山など、「爆発」の用語が地元で定着している場合には、爆発地震の有無、空振の大きさ、大きな噴石の飛散距離などの条件を満たす噴火について、「爆発」を使用することがある。

✓ 気象庁が噴火警報等で用いる用語集はこちらからでも確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

噴火警戒レベルの判定基準リンク集

(主に警報発表火山のみ)

■ 霧島山(新燃岳)

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/551_level_kijunn.pdf

■ 桜島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/506_level_kijunn.pdf

■ 薩摩硫黃島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/508_level_kijunn.pdf

■ 諏訪之瀬島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/511_level_kijunn.pdf

✓ こちらで全国の噴火警戒レベルの判定基準とその解説が確認できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html